巻頭言

ランドスケープ

宮 原 秀 夫*

Landscape

2004年の新しい年を迎えるにあたり，我々の住む街，そして日本のより美しい姿に思いをめぐらせみた．

そのとき，些細なことと言われるかも知れないが，私には常に気になることがある．それは外国，特にヨーロッパ諸国から帰国し，日本の街に入ったとたんに目にする街の光景である．それは，街路に乱立する電柱に，電力線のみならず電話，ケーブルテレビ，有線放送などの線が，まるで蜘蛛の巣のごとく絡み合って，それこそウェブと化している光景である．現在ではさらに，光ケーブルまでもが，それらに架空されようとしている．私はこうした光景が，街の景観，ランドスケープを大きく損なっていると感じている．高速のネットワーク・インフラが必要だから，FTTH(Fiber To The Home)を実現するためだから，といって，闇雲に街中にウェブを作ってもいいというわけではないと思う．

我々の先輩である大越孝敬先生も，先生の著書「光ファイバ通信」のなかで，このことを強く指摘されている．先生の文を引用すれば，「日本庭園にはじまり，茶の湯，生け花に至るまで，美術・生活全般にわたる希有の美を育んできた日本人が，このような街に住むことに平気で耐えられる不思議を，外国人は『日本人は，美に敏感，醜に鈍感』という独特の感性がある，と評されている」と述べておられる．友人からこの書を紹介され，たまたまこの記述に触れたとき，大いに気を良くした次第である．

先生はまた，光ファイバー加入者網の建設が，エネルギー・情報のための都市ネットワークすべてを一挙に地中化できる絶好のチャンスであり，それがおそらくほとんど最後のチャンスではないだろうかとも書かれている．

このようなことを言うと，「電柱，電線が，何が悪い．地中化よりずっと安くてすむ．」という意見が必ずある．私個人としては，そんな意見に真っ向から反論する気も起こらないぐらい気になることなのである．皆さんはどのようにお感じになるか．町並みを撮影した写真から，画像処理により電柱，電線を取り除いたものを見ていただきたい．地中化を機に日本の町並みを美しくできないものか．最近では多少ともこの思いが伝わってか，大阪市中など中心となる広い街路では，かなりの地中化が進んでいるようではあるが，郊外にどんどん建設されようとしている新興住宅街では，家が建つ前に，コンクリートの電柱がにょきにょきと設置されている．これを見ると，またがっかりする．

芦屋市に日本でも有数の高級住宅街，六麓荘という街があるが，この街中には全く電柱が見当たらない．これは，この街が開発された昭和初期に，すでに「電柱は地中化」という確固たる考えのもと，設計されたと聞いている．それこそ街づくりが行われた当時には，無駄な，贅沢な投資だと思われたに違いない．しかしそれが，現在六麓荘にとって，他の街には無いかけがえのない財産であり，住民に大きな安らぎを与える結果となっている．

街づくりは，決して一朝一夕にできるものではない．長い歴史を通して形成されていくものである．だからこそ，目先の利益，効率にとらわれることなく，しっかりとしたグランドデザインのもとで進めてもらいたいと思う．

* Hideo MIYAHARA
1943年6月生
昭和42年工・通信卒業
現在，大阪大学，総長，工学博士，
情報ネットワーク
TEL 06−6879−7000
FAX 06−6879−7004
E-Mail miyahara@ist.osaka-u.ac.jp